



# 中央ウェイ

# 8月号

## 本校が取り組む「特別支援」

主幹教諭 谷村隆人

特別支援部主任を担当しております谷村隆人（たにむら りゅうと）です。大学卒業後、企業の営業職、特別支援学級補助員、手話通訳者を経て、中央ろう学校に着任いたしました。文中で「聞こえない方」「聞こえにくい方」と表記しておりますが、これは全日本ろうあ連盟の方針に準じた表現です。

私と聞こえない方・聞こえにくい方（以下、「聞こえない方」と表記）との出会いは平成9年、私が大学1年の時です。身近に聞こえない方がいたわけではなく、私自身が聞こえない方の視点に魅かれ、直接お話しして自分の視野を広げたいと思い、地域の手話講習会を受講したことがきっかけです。その後、手話通訳者として聞こえない方々の社会生活に深く踏み込んだ場面で活動する中で、コミュニケーション手段も含めた「生き方」を自己決定していく大切さや現実の厳しさ、そして学校教育の重要性を感じ、「ろう学校の教員になろう」という思いを強くしてまいりました。教員になった現在でも聞こえない方との日常的な交流を続けているのは、現在の社会生活を知らず、直接話ができなければ、自立活動教員は務まらないと自分を戒めているからです。

平成13（2001）年、世界保健機関はICF（国際生活機能分類）を採択しました。これを受けて特別支援学校学習指導要領は「学习上又は生活上の困難を改善・克服」しようとする時、「幼児児童生徒が現在行っていることや、指導すればできること、環境を整えればできることなどに一層目を向けるようになることを意味しているといえよう」と解説しています。「特別支援」とは「特別扱い」ではなく、適切な配慮を考えて環境を整備し、学習をはじめとした社会生活の機会を等しく整えることだということと理解しています。これは、現代の社会全体に啓発していかなければならない課題でもあります。

中央ろう学校は平成18年の創立以来（石神井ろう学校のノウハウを引き継いで）、大学と連携し、情報保障を初めて導入する大学には助言し、ノートテイク講習会を開催するなど、大学と共に情報保障の道を創ってきました。全てが順調に進んできたわけではありませんが、地道に対話し各機関との信頼関係を築いてきました。自立活動の授業では、「聞こえないからできない」と思っていることでも「聞こえなくてもできる」に変え、さらに「聞こえないからできる」こと、「自分だからこそできる」ことを追求しましょうというメッセージを発し続けています。私はこの姿勢に深く共感し、日々試行錯誤しております。

「手話が世界共通だったらいいのにね」「この子は聞こえているから大丈夫だよ」「あ、今の言葉は通訳しなくていいからね」…このような言葉に直面するたびに、一般社会への理解啓発の不足と必要性を感じます。本校の役割を果たせるよう日々精進してまいりますので、今後とも、中央ろう学校の教育活動に御理解・御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

# 学校での様子

## 6月22日(水)・23日(木) 中学部2年職場体験

6月22日・23日に下高井戸商店街で、職場体験を行いました。学校としては3年ぶりの職場体験でした。この期間、商店街の方々と話す機会が多かったのですが、中央ろう学校の生徒の評判がとても良いことに驚きました。歴代の先輩方が真剣に実習に取り組んできたことの伝統を感じました。今年の2年生も歴代の先輩方に負けないくらい各店舗で真剣に実習に取り組めていました。掃除、皿洗い、食材準備、チラシ配り、レジ打ち、伝票の整理など業務は様々でしたが、貴重な体験をすることができました。生徒の様子を見て嬉しかったことがありました。生徒の中に、午後の体験に遅れないように、少しでも早く学校を出ようという意識をもって給食後の時間も機敏に動いている生徒がいました。その生徒の体験内容は決して派手な内容ではなく、むしろ地道に行う業務でした。また学校からは少し遠い場所にありました。責任感をもって体験に取り組んでいることを感じました。その他の生徒たちの様子も含めて、生徒たちが伝統を十分に受け継いで次にバトンを渡せることを実感できた2日間でした。



## 7月8日(金)・9日(土) 関東聾学校陸上競技大会

7月8日、9日、高等部陸上競技部は3年ぶりの開催となる、関東聾学校陸上競技大会に参加をしました。高3から高1全員が初めての出場という異例の状況ではありましたが、生徒が主体となってチームをまとめ、先輩が後輩をサポートし、後輩が先輩を応援しながら、一人一人の力を出し切って2日間を戦い抜きました。結果は、中央ろう史上初の1部男子総合優勝を勝ち取ることが出来ました。次は10月山形県で開催される第59回全国聾学校陸上競技大会での総合優勝を目標にチーム一丸で頑張っていきます。



## 7月12日(火) 国語の授業(中学部2年)

7月12日(火)の2時間目、中学部2年G2グループの森永先生による国語の授業の様子です。生徒たちが視覚的な情報を得られるように、板書や電子黒板を活用した授業を進められています。ホワイトボードには、板書と模造紙で板書内容が分かりやすく整理されています。授業の内容は、パラアスリートの谷真海さんが書いた「夢を跳ぶ」の文章を学習していました。19歳で右足切断手術のため義足となった筆者が試練を乗り越え前向きに生きていく体験と心情を考える授業でした。生徒たちは真面目に意欲的に授業に取り組んでいました。

